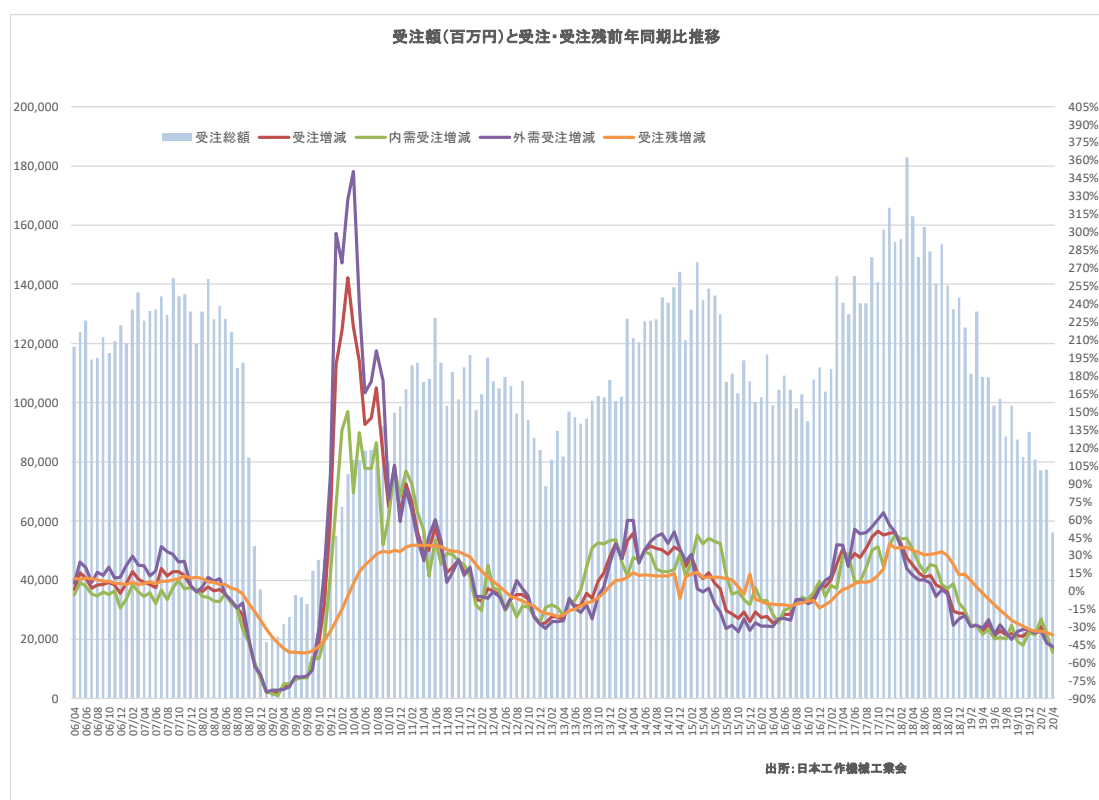


工作機械工業会 5月受注速報 5月52.8%減513億円

5月受注は同月比52.8%減513億円と2009年11月以来の低い水準でコロナ影響継続

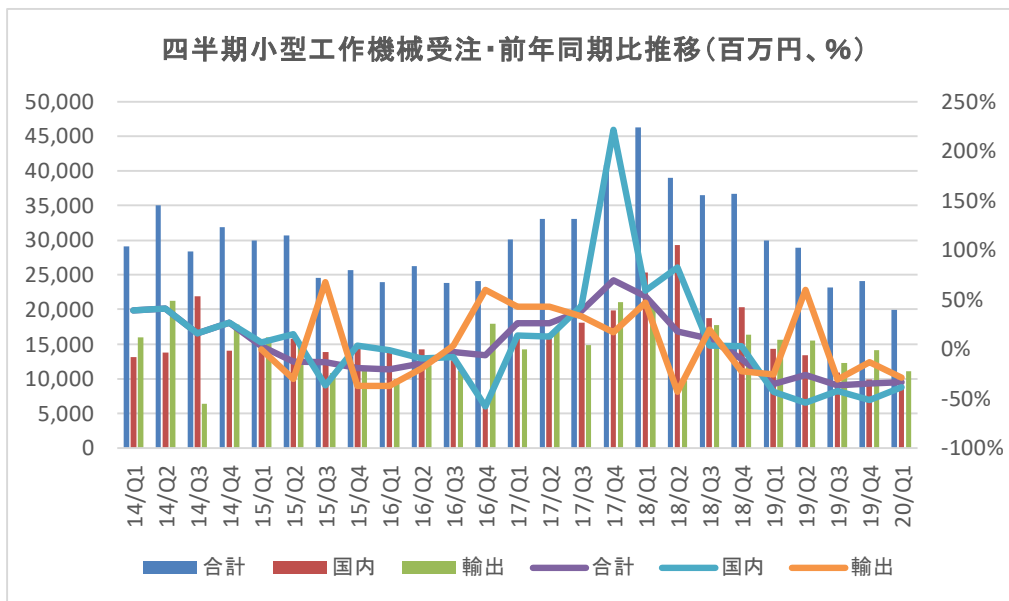
6/9の15時に日本工作機械工業会の5月受注速報が開示された。5月受注は前年同月比52.8%減の513億円と半減以下と低迷した。2010年1月の551億円を割りこみ、2ヶ月連続の600億円割れ、2009年11月の473億円以来の低水準に。前年同月比20ヶ月連続減少、5月としてはリーマンショック後の2009年5月276億円ほどではないが、厳しい数字。

内訳は内需が182億円(57.4%減)で18ヶ月連続減、2ヶ月連続前年同月比で半減以下、前月比でも13.9%減に。190億円割れは2010年1月の158億円以来。外需は331億円(49.8%減)と辛うじて半減を免れたが、20ヶ月連続マイナス、2009年11月の321億円以来の低い水準。今後、国別開示、業種別開示は6/23の確報待ちとなるが、5月は中国がコロナ開けで自動車販売持ち直しもあり回復している模様ながら、中国を除く全世界でコロナウイルスの影響が継続している。



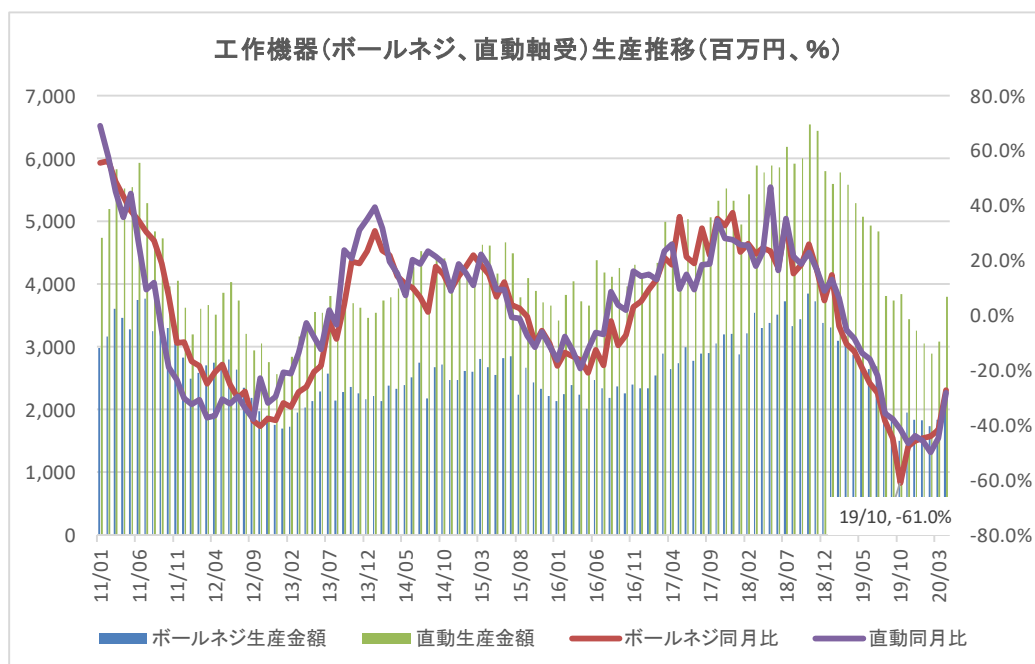
精密部品の加工を行う小型工作機も6四半期連続減少し、2020年Q1は200億円割れ

通常の工作機械と同様に、時計・光学機器・計測器及び通信機器などの精密部品の加工を行う小型工作機においても、受注状況の厳しさが続いている。日本精密機械工業会の4半期受注推移でも、2020年Q1受注は前年同期比33.3%減の199.8億円と、2012年Q4の193億円以来の200億円割れとなり、6四半期連続で前年同期比減となっている。



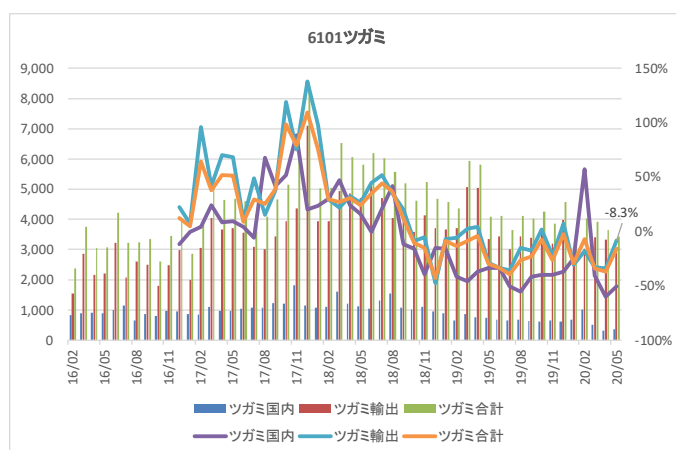
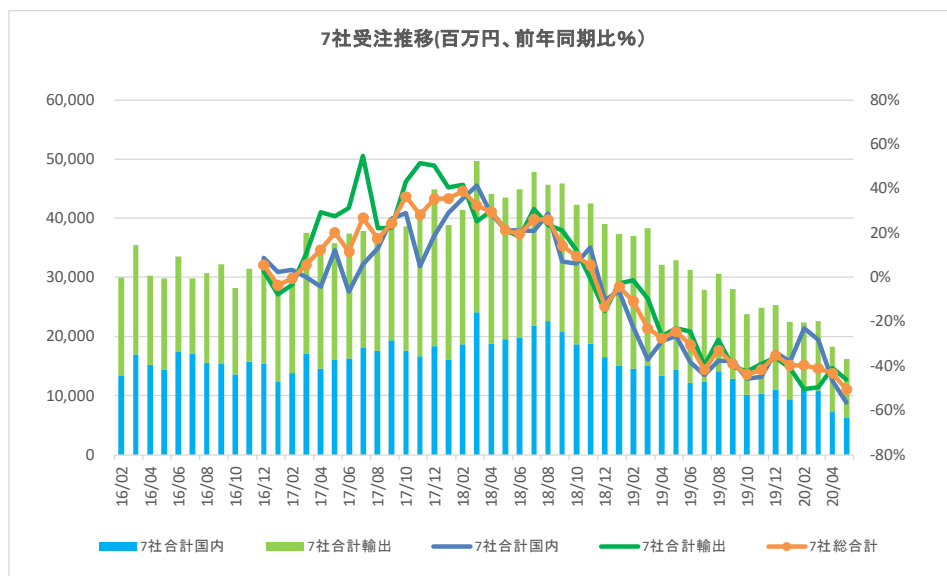
工作機械関連機器の工作機器は2019年10月底に減少率縮小傾向も工作機向けは厳しい

工作機械に関連する工作機器も生産の減少が続いている。6/8に発表となった4月生産では、ボールネジが前年同月比27.2%減の20.92億円、直動軸受が28.1%減の30.01億円となっている。但し、金額的には昨年秋口の金額をボトムに若干回復傾向にある。これは同部品が、工作機械が主たるユーザーではあるものの、半導体製造装置などでも使われているため、こちらの回復が寄与しているとみられ、工作機械向けに限っては、依然として減少に歯止めがかかっていない模様である。



主要7社の5月受注は50.5%減の162億円、全体は厳しいもツガミが中国で受注底打ちも

日刊工業新聞がまとめる主要工作機械7社の5月受注実績も、工業会と同様の動きで、50.5%減の162.59億円となっている。オークマが60.11億円(41.6%減)と、2010年10月以来の60億円台となったほか、牧野フライス製作所は59.4%減、OKK56.8%減、芝浦機械73.8%減、ジェイテクト69.0%減など、軒並み半減以下に。一方、ツガミは34.26億円(16.0%減)と、中国向けが多く輸出が8.3%減に止まるなどで、中国でのアフタコロナで小型精密工作機械の需要拡大から下げ止まりの動きも見られる。



社名	合計	国内	輸出
牧野フライス製作所	3,174 (▼59.4)	1,374 (▼50.5)	1,800 (▼64.2)
オークマ	6,011 (▼41.6)	2,556 (▼48.1)	3,455 (▼35.6)
OKK	520 (▼56.8)	468 (▼44.5)	52 (▼85.6)
芝浦機械	737 (▼73.8)	420 (▼69.8)	317 (▼77.7)
ジェイテクト	1,570 (▼69.0)	527 (▼79.6)	1,043 (▼58.1)
ツガミ	3,426 (▼16.0)	362 (▼50.9)	3,064 (▼8.3)
三菱重工工作機械	821 (▼48.2)	580 (▼49.8)	241 (▼44.0)
7社合計	16,259 (▼50.5)	6,287 (▼56.4)	9,972 (▼45.9)

2020年受注は8600億円(30%減)と2年連続3割減懸念

コロナウイルス影響は人・ものの移動を世界的に阻む動きにあり、特に最大需要先の自動車産業、航空機産業、造船などの設備投資は年度を通じて低迷が見込まれる。半導体や5G向け受注拡大が見込めるものの、構成比が小さく、受注の回復は秋口以降にずれこもう。このため1~5月累計で3429億円(前年同期比41.2%減)で推移している状況から、2020年工作機械工業会受注は8600億円(30%減)、2年連続で30%減もありえる局面に。